

自然共生サイト 北大札幌キャンパス

実施日 2025年9月20日

自然共生サイトに認定された北大札幌キャンパスを専門家と一緒に歩き、札幌中心部に残る貴重な自然環境の観察をしました!! 大学の先生方からは、大学で取り組むさまざまな保全や自然再生、研究について説明いただきました。

「北大札幌キャンパス」はどんなところ？

札幌キャンパスは、南北約2.4km、東西約1.0km、面積177ヘクタールの広がりがあり、来年150周年を迎えるという長い歴史の中でハルニレなどの緑が豊かで歴史的な建造物と調和した景観を作り出しています。豊平川が作った扇状地の末端にあり、昔はメムと呼ばれる湧き水が流れていました。湿潤な場所を好むハルニレが多く生える場所でしたが、現在も理学部の南にはエルム(=ハルニレ)の森があり、胸高直径が2mを超える巨木もあります。キャンパスの北部には恵迪の森や遺跡保存庭園があり、札幌農学校時代の面影を残す森が広がっています。また、再生されたサクシュコトニ川が流れています。キャンパスのうち、施設部分を除いた126ヘクタールが自然共生サイトに登録されています。



中央ローン



大野池



恵迪の森

観察会コース

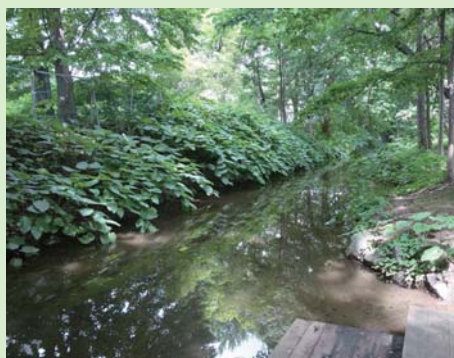
当日は過ごしやすい陽気に恵まれ、市内に住む親子連れなど25名が参加しました。その中にはさっぽろ生き物さがし2025に参加している方もいました。



スタート地点

「キャンパス南部にある正門をスタートし、①中央ローンからサクシュコトニ川沿いを歩いて工学部南の③大野池に行き、さらにキャンパスの自然環境の核心部である⑤恵迪の森や遺跡保存庭園の中をめぐりました(約2.7km)。

サクシュコトニ川は湧水の減少により、流れが途絶えていましたが、2001年に北大の創基125周年記念事業として札幌市との協働により再生されました。札幌キャンパスの自然環境の新たな象徴となり、水生生物の生息地や緑地をつなぐ役割が期待されています。



サクシュコトニ川



観察会の様子

①メアリーさんのハルニレ



正門近くに、新渡戸稲造のメアリー夫人が寄贈したとされるハルニレの巨木があります。1905年に植栽された記録があり、現在の胸高直径は145cmです。衰弱が見られるため、種子から後継の苗を育て、キャンパス内に植栽しています。

④大野池



大野池は、1970年ごろにキャンパスの憩いの場、景勝地となるよう整備された人工池です。オシドリの子やマガモの群れが観察されます。

②中央ローン(松島先生の解説)



中央ローンは、湧水によって浸食されたすり鉢状の地形が残ります。ここではキャンパスの緑地がもたらすさまざまな生態系サービスについての研究が行われています。

③ハンノキ



中央ローン周辺には、湿地を好むハンノキが生育します。北大キャンパスになる前からもともと生えていたものやその子孫と考えられますが、乾燥化などで減少しています。

⑤恵迪の森・遺跡保存庭園



恵迪の森・遺跡保存庭園には、ハルニレやエゾイタヤなどからなる森が広がっています。胸高直径が1mを超える巨木も多く、札幌キャンパスの核心部と言えます。



参加者への説明の様子

(木島梨沙子氏撮影)



オクトリカブト



ゴマナ

★参加者の感想・意見

今回の観察会には、これまで北大札幌キャンパスを歩いた経験がなかったという参加者も多く、キャンパスの自然を知ることができてよかったというご意見がいくつかありました(「**知らなかった北大の自然を知ることができた**」(40代)、「**ケイテキの森に初めて入って感動した。**」(60代)など)、「**興味深かったのは「札幌市との協働でサクシュコトニ川の再生を実現した環境保全の取り組みの話**」(60代)など)。同行した北大の研究者から直接解説をしていただいたことも好評でした(「**専門家に帯同しての参加は、解説を聞きながら参加出来るため、学びが多く有意義な時間でした。**」(50代)など)。

「北大札幌キャンパス」で、今後もこのような活動をする機会がありましたら、ぜひご参加いただければと思います。

★今回のスタッフ

今回の行事は以下のスタッフによって企画・運営しました。

◆主催 札幌市環境局環境共生担当課 坂田・前河・大澤

◆企画・進行 (株)さっぽろ自然調査館 丹羽

◆案内スタッフ 北海道大学 愛甲・松島・北岡・齊藤ほか